



花粉症が引き起こす食物アレルギー!?

第45回

3月になり、花粉症が本格化してきました。みなさん元気にお過ごしでしょうか？今回は、花粉症が引き起こす食物アレルギーに関して、お話しさせていただきます。

季節性の花粉症がある方で、生の果物や野菜を食べたときに、口の中が、イガイガしたり、耳の奥がかゆくなったりしたことはありませんか？

これらは花粉症の原因となるタンパク質(アレルゲン)と、野菜、果物のなかにあるタンパク質がよく似ているため起こり、花粉-食物アレルギー症候群(pollen-food allergy syndrome : PFAS)と呼ばれます。具体的にはカバノキ科の花粉症(ハンノキ、シラカンバ)とバラ科食物(リンゴ、モモ、サクランボ、ナシ、アンズ、アーモンド)やマメ科食物(大豆、ピーナッツ、緑豆もやし)や、スギの花粉症とナス科食物(トマト)、とブタクサの花粉症とウリ科食物(メロン、スイカ)、ヨモギ花粉症とセリ科食物(セロリ、ニンジン、スパス類)などでアレルギー症状が起こることがあります。

症状は、口の中の腫れ、かゆみ、不快感、のどの刺激感、耳のかゆみのみで終わることが多いですが、中にはアナフィラキシーと呼ばれる全身性の強い反応が起こる場合がありますので注意が必要です。花粉のアレルゲンは熱に弱いので、生では食べられなくても、加熱した食品は食べることができるため、ジャムや缶詰などは比較的安心して食べることができます。また花粉症飛散時期に症状が強くなることもあるため、注意が必要です。

1つの食物で症状があったとしても、同じ科のすべての食物が食べられないわけではない(リンゴで症状があってもその他のバラ科食物で症状がおきるとは限らない)ため、1種類ずつ確かめていくことが重要です。

新鮮な野菜や果物を食べて、口の中に違和感がある方は、一度アレルギー科にご相談ください。

(アレルギー科 安田 泰明)



災害用(感染症対策用)テントを新たに導入しました!



三重病院では、今後必ず発生するとされている東南海地震、また、現在も感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症に対して、少しでも皆さんのお役に立てれるよう、新たに災害用(感染症対策用)テントを2張導入しました。テント内は陰圧仕様にすることも可能であり、感染症患者さんを受入れる際にも大変役立ちます。

今回、初めて設営したこともあり、設営完了までに大人約10名で1時間半ほどかかりましたが、完成した時は「すごい立派なテントだね!」

とスタッフ一同感動していました。

今後、いつ大規模災害が起きたり、多数の感染症患者さんを受け入れる事態が発生しても、速やかにテントを設営し、迅速な対応が出来るよう心がけていきたいと思っております。

(庶務班長 岩崎 将之)

